

号外



Design

～ 距離を保ちましょう～



発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

Design号外61号です。地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介と老健やましろからのお知らせなどを掲載しています。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介（第55回）

～ 在宅で潜在的にあった課題が入院によって顕在化し、その課題を在宅と共有しました～



患者さんは90歳代女性です。自宅で転倒し、当院へ救急搬送されました。股関節脱臼の診断で救急室にて整復し、一旦自宅に戻られました。しかし、ADLが低下し、生活がままならないとのことで担当ケアマネジャーから入院のご依頼を頂戴し、経過観察目的で地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れさせて頂きました。

患者さんは独居で身寄りがなく、介護保険サービスの利用と、知人のサポートを受けながら生活しておられました。また、最近、その知人に対して物盗られ妄想が出現したため、権利擁護事業の利用を検討しておられたところでした。

地域包括ケア病棟“彩り”では入院時、受けたい医療などについてご本人の意向を確認させて頂いています。今回は、入院主治医や病棟看護師がご本人と直接話し、受けたい医療などについてご本人の意向を確認することができましたが、今後、もの忘れの進行や患者さんの社会的背景などから、将来、受けたい医療などについて意向を確認できなくなる場合のための準備を進めていく必要性を痛感し、担当ケアマネジャーにもこのことについて情報共有しました。

*

今回の事例を通じて、場所（在宅から病院）や関わる職種が変わることで、在宅で聞き取りにくい情報を確認できることがあること、それを関係機関で共有することの重要性を改めて感じました。これからも患者さんの意思決定支援の一翼を担えるように関わってきたいと思います。

（地域医療連携室 主事 松田 辰基）

地域の皆様の夏期休暇中も受け入れさせて頂きます

～ お問い合わせをお待ちしています～



地域の皆様の夏期休暇中も、地域包括ケア病棟“彩り”では患者様の受け入れをしています。お気軽にお問い合わせ下さい。よろしく申し上げます。

0774-73-1818（担当：榊田・中嶋・松田）

老健やましろより

～ ストレスとうまく付き合う方法 ～



老健やましろでは、毎月様々なテーマを取り上げ、職員の勉強会を行っています。

6月は京都山城総合医療センターの谷川臨床心理士による「メンタルヘルス」の勉強会でした。介護現場はストレスの溜まりやすい仕事であり、また、このコロナ禍ではなおさらのことです。谷川先生のお話の中でも自身のストレスとうまく付き合う方法

(コーピング) をたくさん知っておくことが大事とのことでした。

私は、どちらかというと多趣味な方ですが、コロナ禍の制限のためその半分ぐらいは1年半以上出来ていません。そのような中でのささやかな楽しみ(ストレス解消)のひとつは、美味しい紅茶を飲むことです。写真の場所がどこなのかは内緒にしておきますが、ここは人もほとんどおらず、若草山や東大寺を眺めながら、マスクを外してほっと一息ついて紅茶を楽しめる私のお気に入りの場所です。

私はすぐにイライラしてしまう性格です。大きな楽しみはまだしばらくお預けかもしれませんが、ささやかな楽しみをたくさん見つけ、ストレスとうまく付き合っていきたいと思います。

(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)

地域医療連携室より

～ええトコ～



日曜日の午前、何気にNHKを観ていたのですが、「ええトコ」という番組で、和東町が取り上げられていたので、食い入るように見入ってしまいました。

一家で茶畑を営んでいる家族や民泊経営をしている女性など、和東町の人達を取り上げられていて、まさに番組のタイトルの通り、和東町が「ええトコ」に映っていました。

番組の中で、吉本興業のお笑いタレントが、お茶の葉の天ぷらを食べたり、お茶の風呂に入ったりしていましたが、ほんま？、うそやろ？と思いつつも、お茶の葉の天ぷらはちょっと食べてみたいと思いました。その日の午後に和東町に行ったことは言うまでもありません。

*

今年8月で、地域包括ケア病棟“彩り”を開設し、8年目に突入します。引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。(地域医療連携室 室長 南出 弦)